

Workdayはミッション実現のための変革に不可欠なプラットフォーム

従来のシステムの載せ換えではなく、あるべき仕組みをゼロから構築し、統合、連携を促進し、データの可視化、グローバルでデータの標準化をはかることができました。

「毎日の料理を楽しみにする」をミッションにし、定款にも掲げるクックパッド株式会社。同社では、2017年からの10年間で投資フェーズとして捉え、「サービスの世界展開」、「便利なサービスから料理を楽しみにするサービスへの転換」、そして「レシピの会社から、食料の生産、流通、廃棄まで含めた料理の会社への成長」の3点を目指しています。

導入の背景

クックパッドではシステム分断という課題を抱えていました。従来のシステムは、財務、経費精算、給与計算、採用、人事評価などコーポレート部門の業務でも機能ごとにそれぞれ異なるシステムを導入していました。また、システムが多言語対応していないので、海外拠点では日本と異なるシステムが使用され、スプレッドシートを使ってデータ管理をしている部分も多くありました。システムの分断により、ヒト・モノ・カネのデータを経営判断に使いたいと思っても、手作業による抽出が必要で、特に海外拠点については、財務数値も手作業で集計しており、効率性や精度に問題がありました。

システムの導入にあたっては、グローバル展開を想定した全体最適を念頭に置きました。システムとデータ、プロセスを統合・連携できること、グローバル展開や組織の拡大に対応してスケールできること、経営判断に必要なデータがリアルタイムで可視化できることを条件にシステムの選定を行いました。国内外の複数のシステムを比較検討した結果、要件をすべて満たしているものはWorkday だけでした。

結果、コーポレート部門の会計、人事はWorkdayに統一され、グローバルで共通のシステムを利用できるようになりました。

“

「システムの入替えによって、世の中の流れに先駆けて変化を起こし、変化に対応できる組織・体制を作りたいという思いがありました。世界展開するにあたって、コーポレート部門やシステムが足かせになってはならない、コーポレート部門は経営や事業の変化に迅速に対応できる体制を整え、事業に貢献したいと考えました」

犬飼 茂利男 氏
執行役CFO



企業概要

クックパッド株式会社は、料理レシピ投稿・検索サービス「クックパッド」を始め、料理を楽しみにする事業をグローバルで展開しています。

企業URL

<https://info.cookpad.com/>

結果

- ・ 社員が経費精算等の手続きから解放され、本来の業務に集中できるように
- ・ 意思決定のスピードを上げるために決裁基準を刷新
- ・ 頻繁に発生する組織変更など、変化への対応力が向上

Workday製品

- ・ Workday HCM
- ・ Workday Financial Management

社員が経費精算等の手続きから解放され、本来の業務に集中できるように

以前は、社員が毎月の経費精算や請求書の処理といった作業中心のルーチン業務に忙殺され、業務改善にはなかなか着手できない状況でした。

Workday導入にあたって、社員が関わる経理手続きのプロセスを大幅に見直すとともに、単純業務のアウトソースを進めました。これにより財務部門の社員数は半減したうえ、各部員の残業時間も減少し、大幅な業務の効率化がはかれました。ここで浮いた時間を生産性の高い業務に振り向けるなかで、例えば、経費精算で各社員がシステムに入力するのではなく、領収書を提出するだけで処理ができるようにするなど、社員の経理関連手続きにかかる負担を削減する取り組みを行った結果、この改善に対する社員満足度が85%と社内でも高い評価が得られました。

さらに、コロナ禍においてフルリモートワークになりましたが、経理部門も例外ではなく、出社の必要なく業務を遂行できています。

システムの統合とともに、業務プロセスのエッセンスを取り出し整流化したことで、ルーチン業務を外注化しやすくなり、結果として会社全体の業務効率アップに貢献できました。

意思決定のスピードを上げるために決裁基準を刷新

これまで、経営の意思決定を行う際には、取締役会、経営会議などで議論し、合議の上で決定をしていました。そのため、意思決定のために会議の開催日まで待つ必要がありましたし、会議のための資料作成や定形書類の準備に時間がかかっていました。また、毎回の会議のために経営陣の貴重な時間が消費されるというも大きなコストになっていました。

そこで、経営意思決定のスピードアップを図るために、決裁基準を刷新し、ほとんどの意思決定を会議体ではなく、個人の承認でできるようにしました。決裁の申請はWorkdayで実施し、申請者は、承認権限者に意思決定に必要な情報を渡せばよいだけになり、大幅な効率化が図れました。

人事・財務のマスタや決裁フローのロジックがWorkdayによりグローバルで統一されていたため、こうした大きな変更でも数ヶ月という短期間で実現できました。

頻繁に発生する組織変更など、変化への対応力があがった

クックパッドでは、変化の激しい事業環境のなかで成長を続けるために、スクラップアンドビルドで組織変更を行うことが多く、毎月、新しい部署ができる、部門が統廃合される、部門長が変わるといったことが発生します。

Workday導入によりこうした目まぐるしい変化に対応できる体制が整い、柔軟な組織変更が行いやすくなっています。



「ミッションを最速で実現するために、管理部門は事業の加速に貢献します。そのためには、管理部門が主体的に変化を起こす必要があります」

山下一成氏
財務部長